

### 1.はじめに

ユニバーシアドへ2回目の参加をする事が出来た。

うれしい気分の中にも、結果を残せるのか不安な気持ちが大きかった。

自分の出来る、ユニバ経験者としてみんなをまとめることはしっかりやろうと思って挑んだ。

次回以降の何かヒントになることを願って綴ります。

### 2. 選考会

選考会では、スプリントは予選落ち、ロングは悪くはないが、良くもない結果。

その当時は選考会はあきらめ気味で、ユニバー経験者として、通過がほぼ決定しているメンバーにアドバイスをしていた。

それとは裏腹にミドルでは得意なコースであったこともあり、非常に良いレースをすることが出来た。

そのお陰でユニバ代表に選んでいただけた。

やるからには前回よりしっかりやらないと、前回した大げがもないように頑張ろうと思った。

男子代表は自分以外みんな初参加であるし、代表をまとめ役をするぞと気合いが入った。

### 3. 遠征まで

入社一年目。社会人になりたてでのユニバー参加。

会社に長い休みを申請し、遠征に行かせてもらうのも大変であった。

ユニバーがある時期には所属部署で働いているため、部長から許可をもらう必要がある。

そうであるのに、入社時研修が6月下旬まであり所属部署には顔を出し挨拶する機会すらない。

許可を得るのに時間が掛かってしまった。

さらに、休みは予定より長く取ることが出来ず、トレキャンへの参加は途中からと短いものになってしまった。

慣れないテラインに対応するために非常に重要であるトレキャンに全日参加出来ないのは大きなビハインドになった。

トレーニングについて。

毎日、定時には帰社する事が出来ていた。

慣れない社会人生活のせいで普段から心身共に疲れていてあまり走ることができなかった。

家が会社から1時間半と遠かったこともあり、より余裕がない状態であった。

そのため、月100Kmは最低走っていたが現状維持が限界であった。

もっと工夫して色々やれたのではないかと、後悔している。

過去のユニバでも、社会人一年目では本調子で挑めている選手はなかなかいないようである。

社会人一年目で参加したいと思っている方は、是非気をつけて欲しい。

経験者として

チーム内でミーティングすることがある。

そういう時まとめ役がいないと話がまとまらず悶々とすることが多い。

リーダーやりますと名乗ったかは良く覚えていないが、なるべくまとめ役をやるようにし、話をまとめうまく遠征が出来るように心がけた。

2年前は雄哉さんや朴峠さんがまとめてくださったように、チームをまとめることが出来たのではないかと思っている。

#### 4. いざ、スウェーデンへ

先述の通り、他メンバーより遅い現地入りとなった。

さらにチケット購入が遅くならざるをえなかったので飛行機も高く、時間も悪いものであった。

会社から直接出発し、トランジット時間が早朝と悪条件であり寝ることができなかった。

無茶なスケジュールであったため現地に着いたときに体調がとても悪い状態になってしまう。

本番レースでは体調が戻っていたが、思うようにトレーニングテラインで走れなかったので非効率だった。

ただ、周りのメンバーは順応し始めているようであったので、早く追いつくために色々質問し努力した。

そのお陰か、本番は周りと同じレベルにはなれたのではないかと思っている。

コツや特徴を現地で聞くということは非常に有用であったようだ。

#### 5. レース

##### 5-1. ロング

想像以上なダイナミックなコースであった。

イージーなミスが続き、最終的には途中で大きなミスをしてしまい自分のレースとしてはそこで終わってしまった。

前回のようなオーバータイムとまではいかないが、結局同じレベルの遅さをたたき出してしまった。

さすがにショックは大きかったが、次のレースのためにあまり気にしないことにした。

今思い返してみると、何故これが出来なかったのかという点がかなりある。

日本では出来ている、自分の思うようにいかなかったことが起きた際の対応が出来ていなかった。

慌てる必要なんてなかった。

##### 5-2. ミドル

ミドルでは落ち着きを取り戻し、ロングより良いレースができた。

ミスはしているが、大きいミスにはならなかった。

全体では悪いタイムだが、日本勢で一番良い結果だったので、まだ面目は保てた。

何も残らないレースにならなくて良かったと思う。

##### 5-3. リレー

2010年より今までの3人リレーから4人リレー制になり、2チーム出られるようになった。

4人リレーが走れる貴重なイベントであったので、少し寂しい気持ちもある。

自分は2軍2走だったので今までのルールだと走ることが出来なかったなのでその点はあるがありがたかった。

チームも増え、全体的にスピーディーなレース展開になったと思う。

それに伴って、欧米のテラインを走り慣れていない日本勢にはより不利になったと考えられる。

リレーも自分が対応出来るレベルのコース難易度であった。

ただ、海外勢と戦うには体力が不足していた。

バックになった選手と競ることにより、オーバーペースが続き、途中から大きくミスをするようになってしまった。

2年前のエストニアでは体力うんぬんよりテラインが難しくてどう走るのが問題であったが、特殊な例であったと思う。

インカレと違い、レベルが非常に高いのでその中でパフォーマンスを出すには今の日本の走力では全く歯が立たないなと感じた。

日本勢のなかでは3番目のタイムであったが、内容は良いところがなかった。

## 6. まとめ

2年前のユニバーではエストニア開催ということもあって、テラインが特殊で全く対応出来なかった。詳細は2年前の報告書を読んでもらいたい。

今回のスウェーデンでのユニバーはテラインに対応出来るレベルであった。

しかし、どの日本メンバーもミスをなくすまでは対応することができず、なかなか良い結果が残せなかった。

日本チームが対応できるとうことは他国も容易に対応出来るということなのだろう。

結果的に思うのが、エストニアはどの国も対応できなかつたためうまくいけば例年より上位に行けるなという感じがあった。

スウェーデンはどの国も対応できるレベルのテラインであったためミスをしてしまうとすぐに歯がたたなくなってしまふという印象であった。

各自ミスが多すぎた。体力も足りないが、そもそもテラインへの対応が足りてなさ過ぎる。

自分の2年の参加の結論になる。

大学4年から毎年海外遠征をしていて、4年目の海外遠征であったがまだまだ対応できなかった。

日本でも地域により対応が違うように海外でも地域性は大きい。

本当に結果を残したいのであれば、開催地に近いテラインを徹底的に勉強する必要がある。

地図読みはもちろんのこと(古い旧マップで読むというよりは新しい今の書き方に近いところが良いと思う)

実際に入ってみてコツを掴むことが一番大事である。

もっとテラインに入らないと。

## 7. 最後に

結果的にはほぼ2年前とオリエンテーリングとしての結果は同じであった。

体力的にまだまだ、テラインの対応もまだまだでした。

自分の実力はこんなものではないと思う気持ちは大きく残念であったが、環境的に仕方がなかったかなと思う。

ネガティブなことばかり書いてきたが、一緒に参加したメンバーのお陰でとても楽しく遠征する事が出来た。

休憩時も楽しく過ごせ、リラックスさせてもらえた、ずっと忘れられないメンバーだ。  
そんな彼らを経験者として、引っ張っていったというところで達成感が大きい。  
一緒に行ったメンバーは今後もオリエンテーリングを引っ張ってくれることは間違いないと思う。  
これからも一緒に切磋琢磨していきましょう。

サポートしてくれた西脇さん金並さん大橋さん小林さん、トータスとOLTを始めとする応援してくだ  
さった方々、チームメンバーには非常に感謝しています。感謝してもきれないくらいだ。  
本当にありがとうございました。

自分自身のユニバーシアードはこれで最後となったが、これからも何かしら関わっていきたい。

